

尾瀬に戸隠升麻を求めて

高橋克己

「春から初夏にかけて深山の雪の残る溪流沿いに清楚かつ妖艶な花が咲き競う」と図鑑で紹介されているメギ科の『戸隠升麻(ニギハシクマ)』を求めての山行である。戸隠升麻は戸隠草とも呼ばれ長野の戸隠で見つかったが、残念なことにそこでは戸隠森林公園で保護されているのみのようである。



鳩待峠近くで同じくメギ科の山荷葉(キキョウ)が咲いている

る。更に山の鼻付近でもメギ科の葉が牡丹の葉に似ている類葉牡丹(ミヤマアザミ)も咲いているがハイカーは気付かないのか通り過ぎていく。他にも白根葵(シロネ)や白山千鳥(シロツバキ)、延根千鳥(トビ)なども咲いている。



6月の尾瀬の定番は『水芭蕉』だろうが、その水芭蕉の白い仏炎包は殆んど見当たらない。立金花(トビ)もあまり咲いておらず白く傷んでいる花弁も多い。Kkさんが以前来たときにたくさんあったという朱鷺草(トビ)等も行き帰りとも捜したがとうとう見つけられなかった。



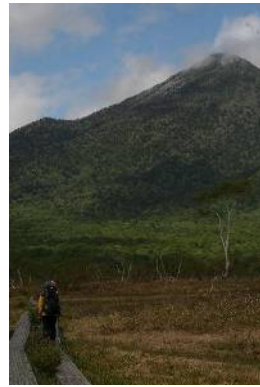
立山竜胆(タテヤマリンドウ)はあちこちに咲き、蕾もたくさんある。姫石楠花(ヒメキナンド)も咲いている。が、共に小さい花の上に木道もあり思った通りの被写体になってくれない。鈴蘭のような葉で蕾を着けた草もたくさんある。



木道の整備のためかその草が倒れた辺りからはニンニク臭がプンプンするので行者大蒜(ニンニク)と判る。

登山道にも回りの山々にも雪は見当たらず至仏山にほんの少し残っているだけである。燧岳も雪は見当たらないが、頂上は雲に隠れている。が、雲が途切れると雪が降ったの

か、霧氷が出来たのか白く見える。



燧小屋でテント泊の手続きをする、その時の話では水芭蕉は2週間ほど早く咲いた上に遅霜の被害に合ってしまったと言う。

お目当ての『戸隠升麻』も4、5日前に咲き終わってしまったという。でも、折角来たのだから自生地の葉だけでも見よう！と探しに行く。

戸隠升麻と思われる実と葉を着けた株を幾つか見つけるが、やはり花はない。次回に期待を込めて、葉と実の写真を撮った。諦めて帰ろうと振

り替えると、花を着けた一株が此方を見て微笑んでいる。薄紫色の目立たないが奥ゆかしいお嬢様のような花であった。

テント泊の夜は寒かった。星空が見えるが、2年2ヶ月毎に地球に近づく火星は雲から出ると、すぐまた隠れてしまった。寒くてもう外に出る



気になれない。朝方も冷える。霜は降っていないように見えたがこの日も大霜だった。

三条の滝に歩き出すと蓮華躑躅(フデリンドウ)や木々の葉に霜が着き綺麗である。が、帰りには蕾も花も霜害でシユンとなつている。沢を横切るときに戸隠升麻を探すが見つからない。両岸が崩れた感じはなく昨日咲いていた付近と雰囲気異なるように感じる。微妙な条件下で戸隠升麻は自生するのであろうか。





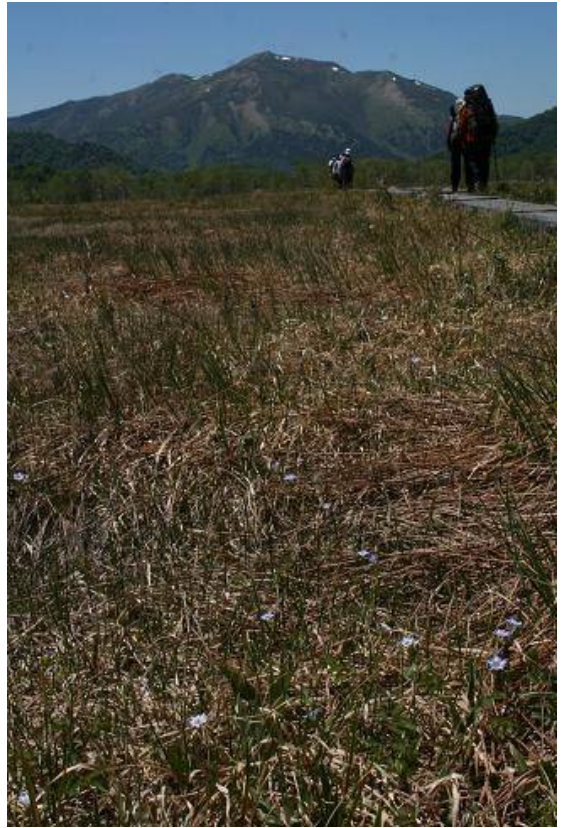
帰りの尾瀬ヶ原は金曜日なのか旅行会社や学校等の団体も多く混雑している。だが、自然を感じないような急ぎ足のハイカーも多い。

【山行日】H 28年

6月2日〜3日

【メンバー】マ原塚Kk、

S々木(雅)、TK



【後日談 姫座禅草】6月に日に仕事中に入間市宮寺の埼玉県の「緑の博物館」に息抜きに立ち寄った。博物館といっても山小屋風の小さな事務所があるだけで自然事態を博物館にしている。中部プロックの交流会のあった北本自然公園のような感じである。多くのハイカーが座禅草より5分の1位しかない『姫座禅草 (トキギキョウ)』を観賞し、館員やボランティアの話を買問したりしながら熱心に聴いていた。

尾瀬ヶ原では座禅草が見つからなかったこともあり一緒に話を聴く。埼玉県では絶滅危惧種でこの辺しかいないが、新潟など雪国でもあるとのことでしたので、いつか雪国で探してみたいと思う。